

A-X-2

遷延性意識障害患者に対する高磁場 3T-MRI 装置による MRI および MRA 所見

財団法人広南会広南病院 ¹東北療護センター(NASVA), ²理学療法室, ³脳神経外科
⁴東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経外科学分野
○長嶺義秀¹, 中里信和¹, 阿部浩明^{1,2}, 井上 敬³, 藤原 悟³, 冨永悌二⁴

【目的】遷延性意識障害患者の画像診断にはいくつものmodalityが存在するが, 高磁場 3T-MRI装置による報告は少ない. 今回, 重症頭部外傷後の遷延性意識障害患者の高磁場 3T-MRI装置によるMRI/MRA所見につき検討したので報告する.

【対象および方法】対象は入院中に3T-MRIが施行できた27例(男性23例, 女性4例)である. MRI機種はGE社製SIGNA EXITE HD 3.0Tである. 撮像はT1, T2, FLAIR, T2*(EPI, GRE)の5通りに加え, 頭部・頸部MRAを施行した. MRI所見は, 大脳, 基底核・視床, 脳幹での脳挫傷, 脳萎縮の程度を検討した. 脳萎縮は正常, +(軽度), ++(中等度), +++(重度)の4段階で判定した.

【結果】年齢は21~83(平均46.7)歳, 受傷後の経過は1~36(平均12.3)年であった. MRI施行時の意識障害度は自動車事故対策機構の重症度評価で, 脱却3例, レベル1(軽症)4例, レベル2(中等症)3例, レベル3(重症)17例であった. 脳挫傷はさまざまな部位に存在したが, T2*で微小脳出血を含む出血痕が24例(88.9%)に認められた. 大脳あるいは脳幹の萎縮はほぼ全例に認められたが, レベル3では脳幹における萎縮が著明であった. 心肺停止などで低酸素脳症のある症例では基底核・視床レベルでT2, FLAIR, T2*での低信号域が特徴的であった. MRAでは頭部12例(44.4%), 頸部2例(7.4%)に異常所見が認められた.

【結論】遷延性意識障害患者に対する高磁場MRIは形態学的変化を明瞭に把握でき, 意識障害との関連からも有用な情報が得られた.